

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992500136		
法人名	社会福祉法人 高幡福祉会		
事業所名	グループホーム 梅の木		
所在地	高知県高岡郡四万十町大井川1462番地1		
自己評価作成日	令和3年8月5日	評価結果 市町村受理日	令和4年1月31日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かなこの地域で暮らし続けられるように、利用者の個別性を大切に、健康管理に配慮しています。  
利用者がおいしく食べて元気に過ごしてもらえるよう、口腔衛生管理に力を入れています。毎月の歯科診察での助言指導を、日々のケアに活かしています。  
新型コロナウイルス感染予防のため面会制限を行っておりますが、家族との交流関係が途絶えないよう、リモート面会を行うほか、利用者の日々の写真を事業所便りを添えてお送りしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JiyosyoCd=3992500136-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JiyosyoCd=3992500136-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	令和3年12月13日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋建て2ユニットの事業所は、国道から川を隔てた高台にあり、母体法人運営の特別養護老人ホームやデイサービスセンターと同一敷地内で、自然に恵まれた、季節を感じられる環境にある。  
事業所は、食を通して利用者の笑顔が見られることを念頭に、食事は特に大切に考えており、隣接の特別養護老人ホームの厨房で調理され、事業所で温め直して提供しているが、炊飯には地元で採れた米を使用し、美味しく食べてもらう工夫をすることで、完食する利用者が多い。  
母体法人の病院との医療連携が図られ、隣接のデイサービスセンターでは、健康維持のため、希望する利用者数名がリハビリ訓練用マシンを利用している。  
職員は、「地域において必要とされる事業所を目指す」という法人共通の理念にもとづき、家族とのつながりを大切にしながら、利用者一人ひとりの個別性を尊重したケアを日々行っている。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: 1丁目

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週朝礼で理念を唱和している。各ユニットに理念を掲示し、職員への周知を徹底している。職員の入職時には、要件書ファイルと共に個々に配布している。	前回外部評価結果を受け、法人共通の理念ではなく、事業所独自の理念について職員会で話し合ったが、法人共通の理念を継続することになった。事業所の独自性を踏まえ、現行の理念に具体的な言葉を追記することを検討している。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所近くの地域住民から柚子の提供があり、地域の区長、民生委員が職員と事業所周辺の草刈りを行ってくれた。	町内会には加入していないが、年2回の周辺道路の地域清掃には、職員が加している。コロナ禍で地域との交流は控えているが、近隣住民からは柚子や芝桜の差し入れがあり、利用者が散歩している周辺に植えて楽しんでいる。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加したり、利用者も散歩等を通じて地域住民との交流を図り、認知症についての理解を深めてもらえるようにしていたが、コロナ禍で現在は休止している。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所活動報告をはじめ、ケアサービスの質の向上に向けて意見交換を行い、アドバイスを受けている。	運営推進会議には、利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員が出席して、詳細な記録もされている。家族への会議録の送付はできていないほか、報告中心で課題についての協議が行われていない。	会議録を家族に送付すること、及び外部の意見をサービス向上に活かすため、検討課題を議題として設定し、協議することを期待する。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やサービスの取り組みを伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括支援センターとは、利用者の個別相談等を通して、日ごろから密に連携して協力関係を築いている。地域包括支援センター主催の町内のグループホーム連絡会やケース会議等にも、参加している。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、事業所の身体拘束廃止に関する指針を遵守し、身体拘束は行っていない。利用者が自由に移動しているのを、転倒しないよう見守りをしている。出入口は、日中は施錠していないが、保安のため夜9時以降は施錠している。	身体拘束廃止のための研修を3ヶ月毎に開催し、研修内容は職員間で共有している。スピーチロックについてもその都度注意し合うほか、年2回の事業所チェックを行い、集計結果を分析、検討している。外出傾向のある利用者には、思いに添えるよう見守りで対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会、高齢者虐待防止委員会を毎月開催し、虐待についての職員の理解を深め、防止に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修会に参加し、理解と活用ができるよう努めている。研修会に参加できなかった職員に対しては、資料を交付し、伝達講習を行っている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族との面談を行い、十分な説明を心掛け、理解と納得を得てから契約書への署名、捺印をお願いしている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への家族参加や意見箱の設置により、意見交換の場を設けている。意見、要望は真摯に受け止め、管理者、職員で話し合いを行い、運営に反映させている。	家族会はコロナ禍で休止している。運営推進会議には毎回数名の家族参加があり、また、家族来所時や電話連絡時に意見や要望を聞いている。出た意見は職員で話し合い、共有のうえ、個別ケアを中心に改善に活かしている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月運営会を開催している。経営に関すること、稼働状況、職員からの要望等について話し合い、業務に反映させている。	毎月の運営会では、職員から出た意見は必要に応じて理事長に報告している。職員ベッド柵のスイングアームは立ち上がりが安全との提案があり、設置を要望している。利用者の受け入れ等、重要な事項についても職員の意見を聞いている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員に要件書を配布し、自らの職務遂行ができるようにしている。また、各自が能力開発カードを作成し、年次目標達成に取り組んでいる。人事考課制度も導入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人内研修会を計画して、実施している。職員が必要と思われる研修会については、積極的に参加するよう勧めている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホーム連絡会に参加し、情報交換を行って、サービスの質の向上につながるよう取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談で本人の要望を必ず確認し、本人の要望を踏まえたケアプラン作成を行うなどして、利用者が安心して生活できるよう努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面談で家族の要望を確認し、日常生活の支援やケアプランに反映させるなどして、家族との信頼関係作りに努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を十分に把握して対応に努めている。入所前面談には十分な時間を取り、本人、家族の思いを聞いて、必要としている支援の見極めに努めている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりが役割を持ち、職員と一緒に家事を行ったり、散歩やレクリエーション等を行い、共に生活する関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の事業所便りで利用者一人ひとり状態や、日々の生活の様子、施設で行われる行事等を家族に伝え、共有することで、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	<b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍中は、リモートで家族との面会を行い、利用者は、家族から友人、知人の情報を得ている。	病院受診の際に自宅周辺に立ち寄ったり、馴染みの美容院からカットに来てもらったりしている。知人の来訪があり、窓越しで会う利用者もいる。新型コロナウイルスの感染状況をみて、家族面談はリモートから直接面談に切り替えつつある。	
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の中に入って会話の促進を図る等、関わり合いが持てるような支援を心掛けている。また、ユニット間の馴染みの利用者同士の交流を支援している。		
22		<b>○関係を断ち切らない取組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所しても、いつでも相談、支援ができる体制にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の訴えや話を傾聴して自分に置き換え、意向の把握に努めている。	利用者の思いや意向は大切に考えており、前回の外部評価結果を踏まえ、センター方式の「私の気持ちシート」を活用して職員全員が共有し、ケアプランに反映させている。今後は生き甲斐とか家族の思いも追加しけるよう、記載欄を設けることを考えている。	
24		<b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に十分な情報収集を行い、入所後も本人、家族から話を聞きながら、新たな情報収集に努め、利用者の日常支援に活かせるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送りや心身状態の変化が見られるときは、その都度職員間の情報共有に努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を確認して、カンファレンスで話し合い、ケアプランを作成している。カンファレンスには、本人又は家族の出席を求めている。	介護職員に理学療法士も加わって、モニタリングやアセスメントしている。カンファレンスには利用者や家族も参加して、3ヶ月毎にケアプランを見直している。本人の状況に変化があるとき等、必要に応じてケアプランを随時見直している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実施状況を記録に残し、申し送り等を行って、職員間で情報共有している。ケア会議を開催して、ケアプランの見直しができるよう活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は行っていないサービスでも、できる限り希望に沿うことができるよう検討して、対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人ひとりの暮らしの支えとなっているものが何なのか、入所前後に本人、家族から情報収集して、本人が不安なく穏やかに生活できるよう努めている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人、家族の希望を尊重して決めてもらっている。医療機関への受診の支援のほか、かかりつけ医とは密に連絡を取り、関係を築いている。	かかりつけ医は、利用者や家族の意向を尊重して決めている。17名の利用者が、協力医である母体法人運営病院をかかりつけ医とし、職員2名で受診介助をしている。眼科等の専門医通院時も受診介助をしており、家族には受診結果を報告し、情報共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の特別養護老人ホームの看護師と申し送りをして情報共有し、利用者の状態変化や気づいたことがあればその都度報告して、本人の健康状態を確認している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者と密な連絡をとり、日ごろから関係性作りに努めている。利用者の入院の際には、介護サマリーを持参又は送付して、情報提供している。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について早い段階から本人、家族と十分な話し合いを行い、事業所でできることを説明して、理解を得ている。今後の方針を共有し、関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	事業所での看取りは行っていない。入所時に、重度化した場合や終末期の在り方について、本人や家族の意向を聞き、事業所でできることを説明して、理解を得ている。本人の重度化時には家族、主治医と話し合い、納得のいく終末期を迎えられるよう支援している。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月事故発生防止委員会を開催している。事故発生防止の研修会を行い、事故防止に努めている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、風水害の災害時に昼夜問わず利用者が避難できる方法を職員全員が身につけられるよう、研修会や防災、消防訓練を定期的に行っている。	消防署には年2回立ち会ってもらい、利用者も参加した避難訓練を実施している。福祉避難所として指定を受けており、非常用食料等は7日間以上の備蓄がある。地域住民が参加した訓練はできていない。	災害時に近隣住民からの支援は不可欠であり、運営推進会議で防災訓練の在り方を協議し、家族や民生委員のほか、近隣住民への参加を呼びかけることを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、声かけや対応には十分配慮している。プライバシーの確保については、研修会やマニュアルに沿って、職員全員で取り組んでいる。	職員は利用者を姓にさんづけで呼ぶ等、慣れ合いにならないよう配慮している。ケアの中で気になることがあれば、職員同士で注意し合っている。また、人に知られたくないことは守秘し、利用者のプライバシー保護にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるよう、本人の選択肢を増やして声かけを行っている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を見ながら、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援や介助をするように努めている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身だしなみを整えることができる利用者は見守り、できない利用者には確認しながら介助している。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見守りをしながら、利用者のできることは職員と一緒に協力して行ってもらっている。	食事前に口腔体操やストレッチ体操を取り入れ、食事を楽しくする取り組みをしている。隣接の特別養護老人ホームの厨房で作った食事は温め、地元の米を炊飯して、全員の完食をめざしている。利用者は、テーブル拭きや下膳など、できることをしている。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量の把握に努め、個々の状況に応じた食事形態はもちろん、食事や水分管理を行い、摂取量の低下時には管理栄養士に相談し、早めの対応と検討を行っている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月歯科医師、歯科衛生士による訪問歯科診療があり、指示を得ながら利用者一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄のタイミングに合わせてトイレ誘導を行い、排泄できるように取り組んでいる。	利用者全員の排泄パターンを把握して、特に排尿、排便の自覚がない利用者には定期的に声掛けをしている。居室にトイレがあるが、夜間はトイレの明かりが自動点灯するのを誘導サインとして捉え、見守りをしている。排泄の失敗をなくすよう努めている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶やスポーツ飲料などで水分補給の工夫をし、運動、日光浴のほか、食事、水分摂取量の把握をして、便秘予防に努めている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調やタイミングに合わせて、利用者一人ひとりに合った入浴支援を行っている。	利用者は好きなときに入浴可能で、週に3～4回入浴する利用者が多い。長湯の好きな利用者には、入浴時間もゆっくり取っている。長い間入浴拒否が続いた利用者も、職員が根気強く不安を取り除くことで、現在は入浴するようになった。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活リズムを把握して、自由に好きな場所で過ごしてもらったり、自室で自由に過ごす時間を確保するなど、自由に休息が取れるようにしている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、事業所で定めた服薬手順にもとづいて服薬支援を行い、本人の状態に変化があれば、医師、看護師に報告している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族から生活歴の情報を集め、利用者一人ひとりの状態に合った役割の提案をしたり、気分転換が図られるよう支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望に合わせて敷地内の散歩を行い、気分転換と外気浴を行っている。	天候や本人の状態を見ながら、車いすの利用者も含め、全員が敷地内を散歩し、外気浴に努めている。コロナ禍で外出が制限されているが、利用者の通院介助の帰りに自宅周辺に寄ったり、紅葉を見に行く等の工夫を行い、気分転換にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診時に必要に応じてスーパー等で買い物ができるように支援していたが、現在はコロナ禍で職員が代行している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話の代行、取り次ぎの支援を行っている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調管理と採光の調整を行い、利用者が居心地良く過ごせるよう努めている。また、季節感を感じてもらえるよう努めている。	リビングの内装に木をふんだんに使用しており、温かみがある。天井は高く、広いスペースがあり、利用者がゆったりと寛げる。クリスマスツリーを飾りつけ、季節感を出している。テーブルの間隔が広く、利用者はソファ等で談笑して、自由に過ごしている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活スペース、サンルームでは、利用者に自由に過ごしてもらえるようにしている。外を眺めながらのおやつタイムや、音楽を聴きながら一緒に会話をし、利用者が気持ちよく過ごしてもらえるよう努めている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れたものを自由に持ち込んでもらっており、居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室は新しく清潔で、トイレ、備え付けの箆笥、ベッド、冷暖房、洗面所、長机、緊急通報装置が備わっている。窓には障子や網戸が入っている。家族の写真や置物などを飾り、楽しんでいる利用者もいる。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリー化しており、各居室に本人専用の洗面所、トイレが設置され、安心して自立した生活が送れるようになっている。居室、トイレには、非常時に職員を呼べるよう通報装置を設置している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: 2丁目

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週朝礼で理念を唱和している。各ユニットに理念を掲示し、職員への周知を徹底している。職員の入職時には、要件書ファイルと共に個々に配布している。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所近くの地域住民から柚子の提供があり、地域の区長、民生委員が職員と事業所周辺の草刈りを行ってくれた。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加したり、利用者も散歩等を通じて地域住民との交流を図り、認知症についての理解を深めてもらえるようにしていたが、コロナ禍で現在は休止している。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所活動報告をはじめ、ケアサービスの質の向上に向けて意見交換を行い、アドバイスを受けている。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やサービスの取り組みを伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、事業所の身体拘束廃止に関する指針を遵守し、身体拘束は行っていない。利用者が自由に移動しているのを、転倒しないよう見守りをしている。出入口は、日中は施錠していないが、保安のため夜9時以降は施錠している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会、高齢者虐待防止委員会を毎月開催し、虐待についての職員の理解を深め、防止に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修会に参加し、理解と活用ができるよう努めている。研修会に参加できなかった職員に対しては、資料を交付し、伝達講習を行っている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族との面談を行い、十分な説明を心掛け、理解と納得を得てから契約書への署名、捺印をお願いしている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への家族参加や意見箱の設置により、意見交換の場を設けている。意見、要望は真摯に受け止め、管理者、職員で話し合いを行い、運営に反映させている。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月運営会を開催している。経営に関すること、稼働状況、職員からの要望等について話し合い、業務に反映させている。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員に要件書を配布し、自らの職務遂行ができるようにしている。また、各自が能力開発カードを作成し、年次目標達成に取り組んでいる。人事考課制度も導入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人内研修会を計画して、実施している。職員が必要と思われる研修会については、積極的に参加するよう勧めている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホーム連絡会に参加し、情報交換を行って、サービスの質の向上につながるよう取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談で本人の要望を必ず確認し、本人の要望を踏まえたケアプラン作成を行うなどして、利用者が安心して生活できるよう努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面談で家族の要望を確認し、日常生活の支援やケアプランに反映させるなどして、家族との信頼関係作りに努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を十分に把握して対応に努めている。入所前面談には十分な時間を取り、本人、家族の思いを聞いて、必要としている支援の見極めに努めている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりが役割を持ち、職員と一緒に家事を行ったり、散歩やレクリエーション等を行い、共に生活する関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の事業所便りで利用者一人ひとり状態や、日々の生活の様子、施設で行われる行事等を家族に伝え、共有することで、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	<b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍中は、リモートで家族との面会を行い、利用者は、家族から友人、知人の情報を得ている。		
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の中に入って会話の促進を図る等、関わり合いが持てるような支援を心掛けている。また、ユニット間の馴染みの利用者同士の交流を支援している。		
22		<b>○関係を断ち切らない取組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所しても、いつでも相談、支援ができる体制にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の訴えや話を傾聴して自分に置き換え、意向の把握に努めている。		
24		<b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に十分な情報収集を行い、入所後も本人、家族から話を聞きながら、新たな情報収集に努め、利用者の日常支援に活かせるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送りや心身状態の変化が見られるときは、その都度職員間の情報共有に努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を確認して、カンファレンスで話し合い、ケアプランを作成している。カンファレンスには、本人又は家族の出席を求めている。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実施状況を記録に残し、申し送り等を行って、職員間で情報共有している。ケア会議を開催して、ケアプランの見直しができるよう活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は行っていないサービスでも、できる限り希望に沿うことができるよう検討して、対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人ひとりの暮らしの支えとなっているものが何なのか、入所前後に本人、家族から情報収集して、本人が不安なく穏やかに生活できるよう努めている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人、家族の希望を尊重して決めてもらっている。医療機関への受診の支援のほか、かかりつけ医とは密に連絡を取り、関係を築いている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の特別養護老人ホームの看護師と申し送りをして情報共有し、利用者の状態変化や気づいたことがあればその都度報告して、本人の健康状態を確認している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者と密な連絡をとり、日ごろから関係性作りに努めている。利用者の入院の際には、介護サマリーを持参又は送付して、情報提供している。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について早い段階から本人、家族と十分な話し合いを行い、事業所でできることを説明して、理解を得ている。今後の方針を共有し、関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月事故発生防止委員会を開催している。事故発生防止の研修会を行い、事故防止に努めている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、風水害の災害時に昼夜問わず利用者が避難できる方法を職員全員が身につけられるよう、研修会や防災、消防訓練を定期的に行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、声かけや対応には十分配慮している。プライバシーの確保については、研修会やマニュアルに沿って、職員全員で取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるよう、本人の選択肢を増やして声かけを行っている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を見ながら、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援や介助をするように努めている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身だしなみを整えることができる利用者は見守り、できない利用者には確認しながら介助している。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見守りをしながら、利用者のできることは職員と一緒に協力して行ってもらっている。		
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量の把握に努め、個々の状況に応じた食事形態はもちろん、食事や水分管理を行い、摂取量の低下時には管理栄養士に相談し、早めの対応と検討を行っている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月歯科医師、歯科衛生士による訪問歯科診療があり、指示を得ながら利用者一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄のタイミングに合わせてトイレ誘導を行い、排泄できるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶やスポーツ飲料などで水分補給の工夫をし、運動、日光浴のほか、食事、水分摂取量の把握をして、便秘予防に努めている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調やタイミングに合わせて、利用者一人ひとりに合った入浴支援を行っている。		
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活リズムを把握して、自由に好きな場所で過ごしてもらったり、自室で自由に過ごす時間を確保するなど、自由に休息が取れるようにしている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、事業所で定めた服薬手順にもとづいて服薬支援を行い、本人の状態に変化があれば、医師、看護師に報告している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族から生活歴の情報を集め、利用者一人ひとりの状態に合った役割の提案をしたり、気分転換が図られるよう支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者一人ひとりの希望に合わせて敷地内の散歩を行い、気分転換と外気浴を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診時に必要に応じてスーパー等で買い物ができるように支援していたが、現在はコロナ禍で職員が代行している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話の代行、取り次ぎの支援を行っている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調管理と採光の調整を行い、利用者が居心地良く過ごせるよう努めている。また、季節感を感じてもらえるよう努めている。		
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活スペース、サンルームでは、利用者に自由に過ごしてもらえるようにしている。外を眺めながらのおやつタイムや、音楽を聴きながら一緒に会話をし、利用者が気持ちよく過ごしてもらえるよう努めている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れたものを自由に持ち込んでもらっており、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリー化しており、各居室に本人専用の洗面所、トイレが設置され、安心して自立した生活が送れるようになっている。居室、トイレには、非常時に職員を呼べるよう通報装置を設置している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない